あなたの暮らしを彩る生活情報紙

Safety Family

2010・夏号

全労済
全国労働者共済生活協同組合連合会
http://www.zenrosai.coop
［セイフティ・ファミリー］
発行所:全労済　〒151-8571 東京都渋谷区代々木2-12-10
媒体番号 891000

CONTENTS

P.2〈特集1〉これからも安心と信頼を求めつづけていきます。
P.4〈特集2〉風水害の被害にあったとき……わが家の再建計画

やすみ りえ

川柳作家

みずみずしい独特の感性で恋の句を詠み、若手川柳作家として注目される神戸市出身のやすみりえさん。

昨年秋に結婚し、公私ともに充実されているやすみさんに、川柳への想いや震災体験を伺いました。

川柳はズバリ、人間を詠む文芸です

川柳との出会いは、知人からいただいた一冊の川柳句集。それは恋の句をまとめた本で、女性の視点で恋のときめきやせつなさがキラキラと等身大で描かれていました。当時、20代前半だった私にはとても入り込みやすく、真似して作ったのが川柳を詠み始めたきっかけでした。29歳の時、初めての句集「平凡な兎」を出版し、川柳作家として活動を本格的に始めました。

川柳はズバリ、人間を詠む文芸。喜怒哀楽といった感情を中心に、日々浮かんでは消えていくさまざまな気持ちを言葉に代えて五七五で表現します。社会風刺や笑いを込めなくてはいけないと思われがちですが、決してそうではないんです。

結婚して私を取り巻く彩りが増えました

昨年11月、やっと縁がめぐってまいりまして(笑)、結婚しました。

尊敬する川柳の先生から「あなたには夫婦という素敵なお題ができたのだから、川柳を作るときのように、どんなときでもそのお題と向き合っていってくださいね」と言葉をいただき、嬉しかったですね。

私を取り巻く彩りが増え、夫婦や家族といったものに作風を広げていければ素敵だなと思います。

五七五で人を元気づける「言葉の日」を創りたい

川柳は入口の幅が広く、しゃべり言葉で詠めるので誰でも気軽に作れます。文化庁の「言葉について考えるワークショップ」で、子どもたちに句を詠む楽しさを伝える活動をしていますが、小学校低学年くらいで、指折り数えながら一所懸命作る姿はほほえましい。中には恋の句を詠むおませさんも(笑)。

多くの方と一緒に川柳を詠む中で、言葉には人を元気づける、前向きにさせてくれる力があるということを強く感じました。夫婦や親子、友達間など、日本中で五七五の言葉を贈り合う「言葉の日」を創るのが私の夢です。

万一のときこそ〝分かち合い〟の精神で

1995年1月17日未明、神戸市垂水区の実家で寝ている時、大きな揺れに襲われました。すぐには地震と認識できず、私の家にトラックが3台くらいぶつかったのではと思いました。幸い家族は無事でしたが、神戸では多くの命が失われました。

震災に遭って一番強く感じたことは「万一のことって実際に起こるんだ」ということ。だからこそ、普段の備えが大事なのだと思います。

**この空へ
いのちの虹を架けながら**

この句は、震災10年後の1月17日に神戸の街を歩き、六甲山にかかっていた虹を見て詠んだものです。

防災とは命を守ること。日頃から万一のとき、自分でできることは何かを考えて備えることは大事です。全労済は「安心をシェア」するという言葉で「分かち合い」を掲げて共済事業を行っているそうですが、それは人と人の心が通い合ってできること。コミュニケーションの道具であり、想像力をはぐくむ豊かな言葉の力も大きいと思います。

「川柳の魅力をより多くの人に伝えていくのが私の役割」と語るやすみさん。澄んだ声で川柳への想いを熱く語ってくれました。川柳ファンをいっぱい増やして、「言葉の日」をぜひ実現させていただきたいです。

やすみ　りえ
神戸市出身。大学卒業後、本格的に作句を開始。文化庁文化審議会国語文化会委員。多数の公募川柳の選者・監修を務めるかたわら、全国を巡り子どもたちに川柳の楽しさを伝える活動も行っている。現在、「笑っていいとも！」毎週月曜日“なりきり川柳”のコーナーに出演中。初心者対象の川柳教室も好評。句集に「平凡な兎」(JDL)「ハッピーエンドにさせてくれない神様ね」(新葉館出版)。